

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム和らぎの家
(ユニット名)	1階
所在地 (県・市町村名)	静岡県磐田市
記入者名 (管理者)	管理者 寺田 麻由子
記入日	平成 20年 5月 9日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・「地域の中で」ということを理念には掲げていないが地域密着型サービスとして地域との関わりは意識している。 ・祭りへの参加、GHへの招待、日常生活(買い物等)を通して地域との接点を作っている。	○ ・地域の方々とも「手を取り合い、寄り添って」暮らしていけたらよい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・皆が意識して取り組めるように掲示している。・オープン時に作った「和らぐ心求め、手を取り合い、寄り添う暮らし」を分かりやすく明文化した。・認知症のGHであることを踏まえ、カンファや定例会にて理念に基づいたケアが出来るように話し合っている。	○ ・職員全員が理念に沿ったケアが出来るよう定期的に話し合い、同じ方向を向いてケアしたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・家族には入居時に説明している。・目立つ所に掲示してあるので家族やイベント時に地域の方を招待した際、目に付くと思う。・便り(家族向け、地域向け)の中で実践しているケアや関わりなどホームの様子を載せている。	○ ・理念の浸透にまでは到っていないと思われるので、他にどのような形で伝えていくのかを考える。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・散歩や買い物等、出会った方にはこちらから積極的に声掛けをし、近隣の方を入居者の方との間に会話が生まれるようにしている。・玄関先で外気浴をしている時はお茶を勧めたりして一緒に話す機会を作るようにしている。・回覧板を入居者と一緒に置きに行く。イベントへの招待をしている。	○ ・日常生活の中で交流を増やせたらよい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・回覧板に地域向け便りを月1回、載せている。・音楽会、お祭り、学校の運動会などに招待してもらったり参加させてもらったりしている。今年3月、地域の公民館祭りにフリーマーケットを出店し、入居者も参加した。	○ ・老人会や地域の活動(ごみ拾い等)に参加することで交流出来たらよい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・GHの祭りに地域の方を招待し、ボランティアの方による催し物等、楽しんでもらっている。・地域向けの見学会を開催したり、入居相談等で具体的な介護の助言をしたりしている。	○	・現在は左記のことしか出来ていないが、引き続き行くと同時に、自分たちが出来ることがあれば行っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価、外部評価をもとに話し合い、改善に向けて取り組んでいる。・評価内容を反省の機会とし、新たなる気持ちで取り組んでいる。・ユニット毎の集計を出すことで自分以外の考えを知り、自己を振り返るきっかけとしている。	○	・今後も評価を活かして改善に取り組んでいく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議録を職員に回覧したり、定例会等で内容を伝えたりして、内容の把握に努めている。・時には利用者も交え、定期的(2ヶ月に1回)開催している。・地域の現状、GHの現状を確認する場にはなっているが、実際サービスの向上までには到っていない。	○	・サービス向上を意識したテーマを考え、話し合う。・管理者やユニット長以外の職員も交代で参加してはどうか。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・地域ケア連絡会に参加したり、介護相談員の受け入れを行ったりしている。・主に管理者等が対応することが多いため、市町村担当者までは分からない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・必要な入居者の方には活用しているが、勉強は不十分であると思う。	○	・勉強していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・意識して行っている。しかし学ぶ機会は一部の職員にしかない。・言葉使いに気をつけている。・自宅までは介入できていないがホーム内では常に気を配っている。	○	・必要に応じて勉強会をやっていけたらよい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、契約等においても十分な説明をし、理解・納得して頂けるようお話している。(利用者の理解の程度は分からず)・理念や運営規定を掲示している。	○ ・認知症の方であるが、出来る限り理解して頂けるよう、わかりやすく説明し、不安にさせないよう心がける。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・月1回、介護相談員の受け入れを行っている。・利用者から意見があった際は記録に残し、全体で把握し改善できるよう取り組んでいる。・地域運営推進会議に参加して発言される方もいる。	○ ・介護相談員と情報交換をし、何かあれば(お互い)改善したい。・来居時の報告記録を作成し、相談員、入居者間のやり取りや意見を職員間で共有していく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・毎月お便りを発行しており、その中にイベントの情報や個人ごとの健康状態、近況、預かり金残高(明細送付)等、お知らせしている。・面会時にその時の状態や状況を伝えるよう意識している。・必要があれば電話連絡もする。	○ ・家族と接する事があるときは、その都度お話し、少しでも情報交換や報告に努めたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・玄関に意見箱があるが実際の利用はない。・面会に来た際に会話の中から意見を汲み取るようにしている。・保護者会がある。・外部評価のアンケートの言葉は出来る限り活かしている。	○ ・保護者会を活用出来たらよい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・事業団の運営会議には参加していないが、必要なことは運営者に伝えるようにしている。・管理者は月1回の定例会により業務等に関して全体及び個人に意見を聞き、取り入れようとしてくれている。・必ずしも運営に反映されているとは思わない。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・行事やイベント時には職員を多く確保している。・1, 2階で話し合い、一日の中でも勤務の調整に勤めている。・管理者もしくはユニット長(2名)のうちいずれかは日勤帯に勤務しているような体制を作っている。	○ ・急な変更に対応できるよう、職員数に余裕があればよい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・管理者はフローア異動は最小限にし、利用者に対するダメージを少なくするよう配慮している。・管理者は1, 2階で職員を原則的に固定化し、利用者に対して馴染みの職員が関わられる様になっている。	○ ・職員の異動により担当が何回か変わったかたもある。家族が不安にならないようにフォローする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○	・現在は管理者が主に行っているため、これからも運営者と協同して必要に応じた研修を受けることが出来るよう努めたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	・他のホームともっと交流してみたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	・利用者側にもGHの情報を伝える。・本人が納得できるまでゆっくり時間をかけた方がよい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・在宅の可能性も考えつつ、他サービスの利用について説明したり、担当ケアマネと話したりしている。・管理者が初期に対応し、その情報を職員に伝え、話し合ったり意見を書き込んだりしてGHで対応できるかどうか考える。・GHが適していないと考えられる場合はその説明をしっかりと行い、その方にとって何が大切か、どのような支援をしたら良いのかを考		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・本人が入居しても良いという気持ちになってもらえるよう、入居前にGHに遊びに来る時間を作り、他者と触れ合うことで慣れたり馴染んだりして頂けるよう努力している。・本人や家族の意見を伺う。	○	・体験入居(日帰り、泊まり)をもっと活用する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・こまめに会話できるように意識し、家事等を通して役立つ等気持ちを通い合うよう努力している。・本人の生活歴や体験を知り、一緒に生活する中で関係を築いている。・家事等一緒に行いながら学ばせてもらっている。人対人として接している。・担当制を活かして信頼関係を築いている。その方の感情を大事にしている。職員と入居者、入居者同士で手を	○	・入居者の方と共に過ごす、寄り添う時間を大切にしていきたい。・もっと入居者の方の色々な感情、得意分野を活かせたらよい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・面会時には少しでも会話ができるように声をかけて、プラン等に関して意見があれば伺う。・家族の気持ちを汲み、家族・職員共に本人を支えられるよう、話をし関係を築いている。・個人差はあるが情報交換をしたり面会や行事参加を通したりして、支援の協力を呼びかけ、ご理解を頂いていると思	○	・入居者を支えていきたいという思いは一緒だと思うので、もっと積極的に家族とコミュニケーションをとる。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・行事へ一緒に参加してもらったり、日々の面会を通してよりよい関係作りを目指している。・家族との接点を多くもてるよう電話や手紙の支援をしている。	○	・出来る限り家族と過ごしてもらえようような支援をする。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・個人差があるが支援している。・生育地への訪問、会いたい人への訪問、友人との関係支援(面会時、話すだけでなく一緒に食事する、手紙のやり取り)、馴染みの場所(病院、美容院等)の利用	○	・全入居者に支援出来たらよい。・本人の大切にしてきたことや人を知る。・関係を継続することの大切さを理解し、支援する。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・グループ핑を意識したケアを行っている。・入居者同士の関係を見極め、職員が間に入ったり支えたりしている。・揉め事があった際は職員が間に入る。・職員が間に入ることによって会話や行動が膨らむことがあるので心掛けている。	○	・他のユニットとの連携を取り、入居者同士が関わる場面を作る等一つの家としてまとまっていけたらよい。・きつい言葉を言われている人の方が孤立している状況になっており、職員が間の入り方を考えるべきである。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今のところ継続的な関わりを必要とするケースは無いが、契約終了後ご本人が落ち着くまではケア関係者から情報を伺うこともある。・利用が終了しても手紙が来たりこちらから面会に行ったりと交流が続くこともある。	○	・そのようなケースがあった時は、関係を断ち切らないような付き合いを大切に出来たらよい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の思いを傾聴し、望むことは出来る限り叶えるよう努力している。職員では不可能な時は家族の協力を得て対応するなど、本人の思いを大切にしている。・全ての希望に添えないこともある。（希望ととるかかわがままととるか…）	○	・本人の立場日たってケアしていきたい。・本人の思いを傾聴し、汲み取れるように努力していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居者から話を聞いたり家族が面会に来た時や行事・家族会を通して情報を得ようと努力している。・これまでの暮らしを出来るだけGHでの生活に取り入れられるように努めている。	○	・記録を共有するためにも得た情報を忘れずに記録する。・ケース台帳の生活歴の欄を活用できるよう、工夫できれば良い。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・認知症であることを踏まえて観察し、情報交換・記録を活用し把握するよう努めている。それに応じ、その人に合わせた過ごし方を提供している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・職員はカンファでお互いの意見や疑問等を出し合い、プランに反映させている。・出来る限り本人の話や希望、家族の思いを伺い、作成者本位のプランにならないようにしている。・不定期ではあるが本人、家族を交えた話し合いの機会を作っている。	○	・入居者や家族の気持ちをもっと知りたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・期間に応じた見直し、評価を行っているが、遅れがちである。・見直し必要項目については日々カンファにて話し合い対応している。	○	・遅れがちなので期間に応じた見直しがきちんと出来るような体制を整える。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌、看介記録、情報交換ノートへの記録により情報を共有したり、次に活かしたりしている。・検討事項はカンファで話し合いプランに繋げる。	○	・本人との会話の内容を記入していくと長い記録になってしまいがちであるが、他職員にもニュアンスが伝わって本人の気持ちが把握できることもあるため、今後も続けたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・併設老健の力(リハやデイ)を借りることはあっても、GHの機能を活かした支援は行っていない。・プランに掲げることで一括りに対応しないようにしている。	○	・GHの機能を活かした対応とは？何が出来るか考える。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・個人によっては民生委員との連携を図っている。・行事ではボランティアの方の協力を得ている。・防災訓練では消防の協力を得ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・ケア会議やケアマネ連絡会へ参加し、情報交換やアドバイスを頂くこともある。・他ケアマネと連携を取り、自分たちで抱え込まないようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・在宅復帰の可能性のある方に対しては包括支援センターの助言を得たり連携を取ったりしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人や家族の望む医療機関へ受診している。・往診医を確保し、希望者は4週間ごとに診察を受けている。必要に応じて往診・受診が出来る。・家族と連絡を取り合い、医療に関しても連携を取っている。	○	・本人、家族、病院、ホームとが連携を取り、医療支援を行っていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・個人的にかかっている方はいるがGHをサポートしてくれる認知症専門医はいない。・老人に詳しい往診医やかかりつけ医に相談や支援を受けている。	○	・往診医との関係作りを行う。・認知症をよく知る医者を探すべきではないか。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・非常勤看護職員(週1勤務)が昨年よりチームに加わり、相談しながら日常の健康管理を行っている。・併設老健の看護職員の支援を受けることもある。	○	・日常的にはないので医療行為は出来ない。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院時には数日に1回は面会に行くようにしている。・家族を通して病院とも連携を取っている。・入院が長期にならないよう、通院支援の可能性も伝えている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・以前は終末期ケアを行っていたが現在は受け入れられる体制ではないので、家族に説明し了解を得ている。・重度化した方については家族と話し合い、医師の助言を得ながら方針を決めている。職員間でもカンファにて情報を共有している。	○	・延命治療を行うかについて、家族に意向を伺いプランに載せる。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・現在、終末期ケアとして行っていないが往診医を確保し、職員・家族間で情報を共有し、変化した時の対応を検討、準備している。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・住み替え時には混乱が大きいことを職員が知っており、ダメージを最小限にするために、本人や家族の見学を取り入れたり、家族・ケア関係者・職員同士で情報交換等行っている。	○	・本人が十分納得してから住み移るようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・記録を外部に持ち出さないようにしている。・個人に合わせた接し方、言葉使いを心掛けている。・一人一人の誇りを尊重するように心掛けているが、余裕が無い時、感情が出てしまったり、さり気ない介助が出来なかつたりすることがある。	○ ・入居者同士の争い(攻撃)への対応を行う。・もっと個々を尊重で着たらよい。自分に余裕が無い時は言葉や態度に表れないよう気をつける。さらに職員同士でも声に出せたらもっと良い。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・入居者のレベルに合わせた対応をし、自己決定出来る様な場面を作っている(お茶、散歩、買い物、入浴等)・本人を交え、説明して決定をうながしている。	○ ・なるべく本人に話し合いに参加してもらい、希望を聞いて決定していく。・自己決定できる場面を少しでも多く提供したい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人一人のペースを大切にし、一緒に作業したり見守ったりしている。・入居者のペース、望む暮らしを出来る限り支援しているが、叶わない時は説明し、同意を得るようにしている。	○ ・職員のペースで動いていることが多い。・自分の希望が言える人(言う人)が優先になってしまう。・個々の希望を汲み取りながら偏りなく支援出来たらよい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・化粧支援、洋服選びの支援をしている。・美容院、床屋など行きつけの所へ行く支援をしている。・身だしなみの整えが自ら出来ない方には、見苦しくならないよう職員が配慮している。	○ ・気分アップのおしゃれが個々でもっと出来たらよい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事準備、片付けなど個人の得意、不得意やその時の気分に応じて行ってもらっている。・本人の好むものの提供、嫌いなもののメニュー変更、食べやすいような工夫(一口大に切る、おにぎりにする等)等の個人対応をしている。	○ ・準備、片付けは決まった人しかやれていない。例え少しでも関わられるような支援が出来たらよい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・本人の好きなものを把握し、一緒に買いに行ったり提供したりしている。・ビールはノンアルコールとし、体調に合わせて行事等で提供している。・水補の飲み物やおやつは楽しみの一つとして個人が好きなものが提供できるよう、本人に伺っている。・現在たばこを吸っている方はいない。	○ ・買い物の前に食べたいものを聞く

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄チェック表を使ってパターンを把握し、おむつ使用者でも日中はトイレにて排泄してもらえるよう取り組んでいる。	○	・失敗した時のフォローもする。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・個々の希望に合わせて支援している。・曜日では特定していないが、時間帯は勤務(見守り)の都合上、ある程度定めている。	○	・入浴希望者が多い時、必ずしも希望に添えないこともあるが、その際は説明したり、他に楽しめるような支援をしたりする。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・個々の希望に合わせて日中の臥床時間を設けている。・自室で休んでいる時は見守る(あまり介入しない)・布団干しやカバー洗濯は週1回行っている。・眠れない時は無理に寝かしつけたりせず、職員室で過ごしたり、飲み物を提供したりする。・希望により眠剤を使用している方もいる。	○	・昼寝後、時間が混乱する方への支援も行う。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・一人一人役割や楽しみごと、趣味等が違うため、それらを把握し支援している。・役割はこちらの概念では固定しない。・他のフロアや時には家族の協力を得ている。	○	・暇を持て余している時間が多いと感じることがある。個々に合わせたアクティビティが出来ると良い。・偏りがないように支援していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・個々の能力に合わせて個人で小遣いを管理したり、支払い時のみ財布を渡したりしている。	○	・支払いが出来る可能性のある方には、外出時に財布を渡して出掛けるような支援が出来たらよい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・散歩、ドライブ、外食、買い物等個人の希望や体調に合わせて支援している。・ベランダや玄関での外気浴を取り入れている。・訴えがある人に偏りがちである。当日、無理な時は説明をして後日行けるように調整する。	○	・職員の都合で誘わないようにする。・季節に応じて散歩や外気浴等取り入れる。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・行事に組み込んでいる(イチゴ狩り、お花見等)・個人の希望に沿った支援をしている(お墓参り、他施設面会等)・計画を立て歌人の協力を得ることもある。	○	・家族と出掛けられる方は決まっている。家族の負担は大きいかもしれないが機会が増えるよう、勧める事が出来たらよい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・年賀状、電話の支援(携帯電話の使い方含む)を行っている。	○	・訴え、希望など個人差はあるが、多くの入居者が大切な人とのつながりを保てるよう支援したい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会だけでなく一緒に食事してもらうこともある。・和室や自室を利用してゆっくり過ごしてもらう。・外で以前の知り合いに会った際はGHによってもらえるように声をかける。・湯茶を提供している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・夜間人手がなく転倒(骨折)の危険がある方に対し、家人へリスクを説明し同意を得て、一時的にベットの柵をしている方が2名いる。	○	・定期的な見極めを行う。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中、常は玄関や自室窓は開錠しており出入りは自由である。・人手がないときは一時的に施錠することがある。・職員は常に入居者の居場所確認を意識している。・中扉に鈴があり出入りが分かるようになっており、出て行った方に対して制止するのではなく見守り、一緒に行動する。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・職員同士連携を取り、本人の行動の妨げにならないように所在、様子、安全確認をしている。	○	・職員同士声掛けを大事にしていきたい。・予想されるリスクが事故に繋がらないよう、見極める力をつけたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・危険なもの(薬、漂白剤、刃物)は目に付かないように保管(目隠しカーテンを使用)したり鍵をかけたり配慮している。・火気類の持ち込みは許可していない。	○	・はさみや針等、個人の私物に関しては個々の管理能力を見極め、何を持っているか、どのように保管しているかを確認している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・事故が発生した際は報告書を書き、カンファを行い再発を防ぐよう取り組んでいる。・勉強会を実施している。・行方不明や災害時の連絡網、対応マニュアルがある。	○	・防災訓練を定期的に行っているが、全ての職員が毎回参加しているわけではないので、周知にはばらつきがある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作り対応している。・勉強会で取り上げている。	○	・看護師より医療的な対応(熱発、骨折、嘔吐、頭強打等)・今後も定期的に勉強会で取り上げてほしい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・近隣の方も防災訓練に参加して頂き、協力を得られるよう働きかけている。・消防訓練、避難訓練を定期的に行っている。	○	・避難経路などホーム内に掲示してはどうか。・避難訓練の回数を増やす。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・入居時や家族会等で起こり得るリスクについて説明し、家族の意向を伺いながら安全確保や発生時の対応等決めている。・職員側も心配りを怠らないよう支援している。	○	・家族には日頃から状況を伝えていく。・事故が発生した時は家族に報告し、やり取りを記録に残す。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・毎日バイタル測定をグラフ化し、平常値や変動を知る。・バイタルだけに捉われないよう皮膚、食欲、顔色、排泄物等の観察も合わせて行う。・変調の際は記録及び申し送りにて職員間で情報を共有し、観察、対応している。	○	・必要があれば往診医とも連携をとる
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・一人一人使用している薬、全ての目的や副作用までは理解し切れていないが、内服薬一覧表や薬説明をファイリングしてあり、すぐに確認できるようになっている。・お薬手帳を一人一冊持っている。	○	・分からないことはすぐに調べたり確認したりする。・配薬ミスや誤薬防止のため、薬の変更や頓用薬があった際は、薬庫前にメモを挟み、情報を皆で確認できるようにした。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・運動や食事等、個人に合わせて工夫、対応している。・排泄チェック表にて排便の様子を把握している。・実際は薬によるコントロールが主体となっている。	○	・もう少し運動量を増やせたら良い。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・口腔ケアは朝食前と夕食後に介助型の方は行っている。・自立の方には介入できていない方もいる。・外出後うがいを必ず促しているが、風邪予防以外にも清潔保持の一部になっていると思う。	○	・食後に職員と一緒に歯磨きをするのはどうか。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・日誌に記録欄を作ったり申し送りをしたりして、職員同士で連携を取り支援している。・補食提供、形態変更も行っている。・水分量の把握、確保を支援している。	○	・食事係でバランスの取れた献立を立てており、摂取量により大まかな管理が出来ている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	・感染症対策マニュアルがある。・インフルエンザ予防接種を年1回入居者、職員共に実施している。・手洗い、うがいの励行、消毒液の活用・流行期には資料配布や回覧にて更なる注意を喚起する。	○	・勉強会の活用
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・調理器具(まな板等)やうがいコップを毎日消毒している。・冷蔵庫(消費期限)の管理うを行っている。・買い物時には鮮度の良いものを購入するようにしている。・食材は出来る限り加熱している。・器具や食器類の水気を切って保管している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・花壇を整備し、立ち寄りやすいよう工夫している。・親しみやすく分かりやすい表札を掲げている。・玄関先にベンチを設置している(気候の良い時はお茶を飲んで過ごすことも多い)	○	・得意な職員が中心になって花の手入れ等を行っていているが、皆で取り組めるよう作業を分担できれば良い。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・トイレ内(おむつ棚)にカーテンをつけている。・部屋の目印にもなるよう、のれんを活用している。・音(テレビ)や光に対して心地良いように意識して調整している。・壁に季節を感じさせるものを掲示している。・生花や造花を飾る。・掃除をしきれいにしている。	○	・居心地の良い共同空間とは何か、常に入居者の様子を見ながら職員で意識する。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・フロアーにソファ(一人用、多数用)設置している。食卓も利用してグルーピング出来る様活かしている。・少し離れた所にも長いすを設置している。	○	・和室活用の検討

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れた家具、いす、机、思い出の品、位牌等を持ち込み、本人の好みの居室となっている。(個人によって差がある)・自室で過ごすことも多く、居心地の良い空間になっているようである。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・換気や温度、湿度調整を意識して行っている。・消臭剤等を設置している方もいる。	○	・認知症ゆえか温度感覚が鈍っている方がおり、調整が難しい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ソファや机の配置などもカンファし、安全であるように努めている。・洗濯竿も個人にあった高さになっている。・浴槽内ではすべり止めマットを使用し、安全意識している。	○	・トイレや浴室に手すりが増設出来れば、より使いやすくなると思う。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・見守ったり、職員と一緒にいたりすることで、出来る力を発揮させている。・トイレの目印等つけ、分かりやすくしている。・失敗した時はフォローしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・ベランダは散歩、外気浴、洗濯干し等行っている。・玄関先では花壇への水やり、ベンチにてお茶を飲むなどしている。・畑作りをしている。・中庭は活用出来ていない(日当たりが悪く、花も育たなかった)	○	・ベランダの活用方法の検討(入居者が管理できるプランターの設置など)

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 緑に囲まれている一方、併設老健や総合病院が隣接しており、恵まれた環境である。
- ・ GHでの食事作りや2日に一度の買い物を通して、食への興味や楽しさを提供している。
- ・ 個々に合わせた外出支援を多く行っている。
- ・ 直接ケアに係わらないの業務を係分担制にして、入居者やホーム環境の充実につなげている。
- ・ 地域の方々にGHや認知症高齢者への理解を働きかけ、受け入れられるように努力したい。
- ・ 入居者一人ひとりの自立支援を図るために「出来ること」を見極め、見守ったり時には一緒に行ったりしている。
- ・ 自分の居場所をこのGHに感じてもらうことが出来るよう、努力している。
- ・ カンファや申し送りを通して職員の意見、情報交換の場を作り、より良い支援が出来るよう努めている。
- ・ 勉強会を開催し、スキルやモラルの向上に努めている。
- ・ 話を傾聴し、思いを汲み取り、寄り添ったケアを意識している。